

目的 ①現代人の自己喪失状況は工業化の成熟段階に於ける原子化された個人の思想状況ともいえる。②ここから家の守護性とそれを重視する家政哲学が現代的要請としての問題となる。③反面工業化に伴なう社会構造変動は従前の家政機能を縮小せしめている。④それ故、家政機能の拡充が企図されねばならない。⑤この問題は今日、政治機能の市民の主体性による家庭生活への取込性によって可能であると思われる。⑥この観点からシビル・ミニマムの思想を検討し、シビル・ミニマムの具体的実現が家庭の守護性を補強し、結果として、家庭機能の回復に結びつくことを論じたい。

方法 松下圭一「シビル・ミニマムの思想」「都市政策を考える」「現代都市政策講座Vシビル・ミニマム」G・ウオラス「政治に於ける人間性」j・デューイ「公衆とその問題」デ・グレージア「疎外と連帯」等の文献による。

結果 ①シビル・ミニマムの思想が現代家庭の復権を指向するものであること。②シビル・ミニマムの具体的実現が a' b' 空間を a 空間化し大衆社会状況に於ける人間性の回復の可能性に通ずること（a 空間、b' 空間については、関口富左「試論・家政学の体系確立について」p1 参照）③シビル・ミニマムを家政の立場から要求すべきであり、家政学者としてもシビル・ミニマムを問題とすべきである。